

平成 29 年度第 1 回 小笠原諸島世界自然遺産 地域連絡会議 記録

日時 平成 29 年 7 月 12 日 (水) 14 : 00 ~ 15 : 50

場所 小笠原村役場 A 会議室 / B 会議室 / 母島村民会館 / 関東地方環境事務所

議事次第

- (1) 管理計画の改定について
- (2) 平成 29 年度の世界遺産管理に係る主な取組実施状況

資料

- 資料 1 - 1 管理計画・アクションプラン改定の進め方
- 資料 1 - 2 管理計画目次の構成案と改定の方向性
- 資料 2 - 1 平成 29 年度_世界遺産管理に係る主な会議・説明会等
- 資料 2 - 2 平成 29 年度_世界遺産管理に係る主な取組実施状況

- 参考資料 1 小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 設置要綱
- 参考資料 2 平成 28 年度第 2 回小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議議事要旨
- 参考資料 3 遺産管理改定の方向性の確認 (第 5 回管理計画改定作業部会資料 3)
- 参考資料 4 平成 28 年度小笠原諸島世界自然遺産に関する基礎資料集

協議結果概要

会議は公開で行われた。

主な協議内容は以下のとおりであった。

- (1) 管理計画の改定について

【意見】

- ・ 2. 計画の基本的事項は、4. 管理の目標と基本方針 ~ 6. 管理の体制に書かれる内容となつたつながりのある内容にすべきである。
- ・ 5. 管理方策には、希少動植物の管理として域外保全・保護増殖に関する記述を加えてほしい。(科学委員の協力もおおぐ)
- ・ 6.1) 関係者の連携のための体制では、管理における連携のための体制ではなく、施策決定における連携のための体制であることを明記すべきである。
- ・ 6.4) 計画の進行管理には、自然環境のモニタリングだけでなく、管理計画の進行に関するモニタリングについても記述すべきである。5 年毎ではなく毎年、管理機関が責任を持って計画の進行管理を行うことを明記いただきたい。
- ・ 管理計画とアクションプランの関係性が明確になるよう留意しながら改定作業を進めてほしい。人の暮らしと自然との調和に係るものがアクションプランの対象になるのかどうか。

- (2) 平成 29 年度の世界遺産管理に係る主な取組実施状況

【意見】

- ・ 西之島の保全対策検討会では、人間が過度に西之島へ上陸して自然を攪乱したりすることのないよう、注意してほしい。
- ・ 有人島ネズミ対策では、行政機関が捕獲したネズミの処理を請け負う等、より一般島民が参加しやすいしくみを検討してほしい。
- ・ 既に侵入している外来種への対応方法を明確にしてほしい。

- ・ 世界遺産の維持管理に係る村民からの問い合わせ窓口を明確にしてほしい。
- ・ 対処すべき外来種について、一般の人でも外来種と固有種の区別ができるよう、リストや絵つきの資料を作ってほしい。
- ・ オガグワの森プロジェクトやプラナリア対策等について、母島でも同様の事業を行ってほしい。
- ・ ネズミ対策について、農業の観点から見ると対策は不十分であり、より大規模な対策をしてほしい。
- ・ 土付き苗の取り扱いについて、早急に検討してほしい。
- ・ 取組み実施状況の説明では、各団体それぞれ聞きたい部分が異なるため、事前ヒアリングをして関心の高い事業についてはより詳細な情報を提示する等、メリハリのある説明を心がけてほしい。
- ・ 資料について、管理機関間でフォーマットを統一する、管理計画の項目順に並べる等、理解を助ける工夫をしてほしい。
- ・ 本日の会議で出た質問・関心事項に関して、12月の地域連絡会議以前にメール等で情報共有いただきたい。
- ・ 管理計画に書かれた内容が実効性のあるものとするのが課題である。一般の人にも理解されるものとするべく、地域連絡会議の担う役割も多いと思う。

議事録

関東地方環境事務所・笠井俊彦所長より挨拶

- ・ 本日は皆様お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。また、日頃より世界遺産の管理運営にご協力いただきありがとうございます。さて、平成23年に小笠原諸島世界自然遺産が登録されてから6年が経過しました。この間、平成25年には兄島でのグリーンアノールの発見、平成25年11月には西之島の噴火等、世界遺産を取り巻く状況は時々刻々と変化しております。
- ・ こうした中で皆様のご理解ご協力をいただき、今年5月に世界遺産センターを開所いたしました。センターには、多くの島民や観光客にお越しいただいております。
- ・ 同センターでは、世界遺産の価値を知っていただくための展示や、希少種であるカタマイマイやオガサワラハンミョウ等を飼育しているブースをご覧いただくだけでなく、父島から各離島へ上陸する際に外来種の持ち込みを防止するために、物資の防疫処理をしたり、協議会のご協力によって希少動物の傷病対応をしたりと、関係者のご協力のもと、保全活動の拠点として様々な機能を発揮しているところです。
- ・ 小笠原の貴重な自然を残すには、地域のご理解ご協力が不可欠です。この世界遺産センターを活用しながら、今後ますます地域の皆様との協働により世界遺産の保全管理をしてまいりたいと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。
- ・ また、昨年10月から開始した管理計画・アクションプランの改定作業では、地域連絡会議の皆様には貴重なご意見やご提案をいただき、感謝申し上げます。
- ・ 本日の会議では、管理計画改定に係る今後のスケジュールや改定方針案について、事務局より説明させていただくほか、各管理機関の主な取組み状況について、ご報告させて

いただきます。

- ・ 限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、何卒よろしくお願いたします。

(1) 管理計画改定作業の検討状況について

資料1-1に基づき環境省・岸より説明を行った。

説明に対し、質疑・意見はなし。

資料1-2に基づき環境省・岸より説明を行った。

説明を受け、以下のような意見及び質疑応答があった。

- ・ 堀越（IBO）：2.計画の基本的事項には、概略を書くということなのか。例えば、管理のしくみについては、5.管理の方策や6.管理の体制で書かれる内容の要約を2.計画の基本的事項に書くということか。
- ・ 岸（環境省）：2.1)管理計画の目的については、現行の管理計画から大きく変更するつもりはないが、そこには管理機関が遺産地域を保全管理していくために、基本的な方針を明らかにするものであると書かれており、これを引き続き踏襲していこうと考えている。さらに、改定の方向性にあるように、「関係者、村民との連携を促進するための考え方を明らかにすること」「村民が成果を実感できるようにすること」などは追記したいと考えている。
- ・ 堀越：大きな構成は、目次項目4~6に書かれている内容が要約され、基本方針にまとめられるということでしょうか。
- ・ 岸：基本方針から話をつなげていこうと考えている。
- ・ 堀越：基本方針から各項目の話に落ちていくのでも良い。いずれにしても、項目4~6はそれぞれ別のものでなく、つながりのあるものととらえて良いか。
- ・ 松下（座長・東京都）：総論、各論があるとすれば、各論を含んだ総論が要約されて、2.計画の基本的事項等書かれるということか。
- ・ 岸：2.1)にはじめから「優れた自然環境を健全な状態で構成に引き継ぐ」といった言葉は出てこないと思うが、「適切に管理をしていく」等の言葉は含まれていくのではないかと思う。
- ・ 堀越：どちらが先かは、今後文章を作っていく段階で、調整していければ良いと思う。
- ・ 堀越：最も気になるのは、2.5)管理のしくみというもので、この具体的な内容は6.管理の体制と思われる。6.管理の体制を見ると、1)関係者の連携のための体制とあるが、ここに書かれるべきは施策決定のための体制であって、連携のための体制ではないと思う。また、4)計画の進行管理とあり、現行の管理計画ではモニタリング等について書かれているが、管理計画の進行管理はどうしていくのか。前回の地域連絡会議でも、次の5年間決まった方向性に向かって頑張っていこうといいながら、自然は変わりつつあるし、予期せぬことが起こる。各事業で自然環境のモニタリングが行われているが、管理計画自体のモニタリングや評価はどこでやるのか。このような管理計

画の進行管理も含めた、2.5)管理のしくみ、6.4)計画の進行管理にしてほしい。今回は、ぜひこの管理計画の進行管理を5年後ではなく、すぐに動けるような小項目をどこかに入れてもらえると良い。現在の構成では、自然環境に対するモニタリングについてしか述べられないように思える。

- ・ 岸：5年後に評価するのではなく、毎年評価をしていくという話については、5.8)施策の評価、検証という項目を設けて、毎年科学委員会や地域連絡会議で事業の進捗や効果について、振り返りができるようにしておきたいと考えている。
- ・ 堀越：5.7)と5.8)は同じ内容に思える。モニタリングという言葉が曖昧に使われている。モニタリングはもともと、自然環境の評価検証と施策の評価検証、2つの意味を持っているため、内容の性格は7)も8)も同じだと思う。ぜひ、5年待たずに、毎年動けるしくみを作っておきたい。
- ・ 岸：5.7)の中に、施策の評価、検証も入れた方がよいということか。
- ・ 堀越：海外の計画を見てみると、「管理計画の内容のモニタリング」という項目があり、自然環境のモニタリングとははっきりと書き分けられている。管理機関が責任を負って計画自体の進行管理をしていくと明記することが必要なのではないか。
- ・ 松下：具体的な文言は今ここで確定する必要はないが、自然環境のモニタリングの他に、計画自体のモニタリングを毎年しっかりと行うということであれば、反映できるだろう。
- ・ 安井（野生研）：5.管理方策に関連して、シマホザキランとコヘラナレンは風前の灯火で、保全の現状を見ると絶滅していくのをただ見守っているだけにしか見えない。5.管理の方策の中には、「増殖」という言葉を入れなければならないのではないか。例えば、一昨年コバノトベラの雌木が枯れたが、弱ってきた段階で専門の研究所で増殖・再生してもらおう等の対応が必要だったのではないか。希少動植物の管理として「増殖」という言葉を入れてほしい。
- ・ 松下：希少動植物の保全として、ただ単に減るのを止めるだけではなく、むしろ増やしていく、増殖させていくという意味合いも明確に表現するべきではないかというご意見だと思うがいかがか。
- ・ 岸：現状の管理計画の中にも、今おっしゃっていただいた植物12種類について、国内希少種に指定されていること、保護増殖計画を作成して保護増殖事業を行っていることは記述されているが、もう少し具体的に、島内での増殖が難しいものについては、島外での域外保全を進めていくといったことを書くべきだという御意見か。
- ・ 松下：あるいは目次で明確に表現してほしいということなのか。
- ・ 安井：5.1)保護制度の適切な運用の中に入れてもらえると良い。
- ・ 岸：目次自体は今の案のままで、実際の文章の中で書き込んでいくということで良いか。
- ・ 安井：増殖の話がきちんと書かれるならば、文章への書き込みで良い。
- ・ 小西（母島観光協会）：これまで5.2)に書かれていた島毎の対策について、5.9)に移動させるとのことだが、5.2)の小項目(で示されているもの)は変わっておらず、5.2)と5.9)の関係性がつかめないがどのように理解したら良いか。

- ・ 岸：現行計画の 5.2)は、島毎の個別の内容でありながら、ボリュームが多く読みづらいため、5.9)を設けて後ろへ回し、5.2)では の 3 つを最初に配置することにした。実際に 5.2)と 5.9)はリンクすることになると思うが、読みやすさを重視し、2 つの項目に分けることとした。
- ・ 小西：5.2)には が 3 つあるが、5.9)では島毎に の内容を具体化するということか。
- ・ 岸：基本的にはそういった理解で問題ない。
- ・ 大河内（科学委員）：先ほどの安井先生からのご指摘は、科学委員が記述を検討する必要があると思う。域外保全については、科学委員担当部分でまとめて記載するようにしたいと思う。
- ・ 堀越：5.2)総合的な...と変更している趣旨を教えてください。
- ・ 岸：5.2)は、個別の島毎の対策について書いていた部分であるが、現状では小笠原の管理をしていく中で、1 つの島だけで対策を済ませるのは難しいことから、事務局内では「島毎に」から「総合的な」に修正しようという話になった。
- ・ 堀越：4.の中で、生態系の管理という話に加え、人の暮らしとの調和という新しい視点が入っており、さらに追加される 5.2)の でも「有人島における...」といった内容が書かれている。総合的という言葉になったのは、新しいエリアや価値観を加えて管理をしていくという意味で、ここには人の暮らしとの調和という意味合いも含まれているものという理解で良いか。
- ・ 岸：そのとおりである。
- ・ 堀越：5.2)のタイトルが変わると、内容が変わるはずである。現行の管理計画 5.2)で、各島の記述を除くと、その記述量は 2 ページにも満たず、詳細はアクションプランへリンクする記述となっている。今回のアクションプランも、生態系保全アクションプランという名前になるのか、まだ聞かされていないが、アクションプランは今回の管理計画のどこへ結びついていくのか。
- ・ 岸：まず、2.4)アクションプランその他の計画との関係というところで、結びついてくる。さらに、5.2)でも現行計画と同様にアクションプランと結び付けるような形で記述していきたいと考えている。
- ・ 堀越：5 年前に戻ってしまうが、初めに管理計画、アクションプランができた際、あくまでもこれらは生態系保全のためのものであり、コア地区での事業について書かれたものであるとされていた。科学委員会では、北進線の工事がアクションプランに係るのかが議論になったこともあった。人の暮らしと自然との調和に係るものがアクションプランの対象となるのかがどうかは、管理計画とアクションプランとのつながりに直接関わってくるものだと思う。そういった意味でも、管理計画とアクションプランがどのように結びついてくるのか、教えてください。
- ・ 岸：アクションプランはこれから改定していくところであり、示せるものがないが、今後の改定作業にあたっては、堀越氏の視点も加味しながら検討していきたい。5.5)にも自然と共生した島の暮らしの実現とあるため、この項目を踏まえたアクションプランにしていきたいと思う。
- ・ 堀越：前回までに管理の目標については合意し、今回は 5.管理の方策と 6.管理の体制

に話が出てきており、これらの実行計画であるアクションプランはどのようになっているのか。

- ・ 松下：5.管理の方策からアクションプランに対応していくのは間違いないと思う。また、アクションプランを作成しながら、その内容を管理計画にフィードバックしていくということもあると思う。
- ・ 堀越：アクションプランは、5.1)～9)に対応して作成していくということで良いか。
- ・ 岸：その理解で問題ない。
- ・ 松下：管理計画の改定について、フィードバックすることはあるかと思うが、基本はこの骨組みで行うということ決定したい。

(2) 平成29年度の世界遺産管理に係る主な取組実施状況

資料2-2に基づき環境省・岸、林野庁・石田、東京都・熊澤、小笠原村・深谷より説明を行った。

それに対し、以下の質疑応答があった。

- ・ 安井：西之島について、保全対策検討会で様々な人が集まることとなっているが、適切な保全対策は「人間ができる限り西之島へ行かないこと」であり、検討会を開いて多くの人が西之島へ上陸するようなことになるくらいならば、保全対策検討会を設けるのではなく、西之島へ行かないというルール作りをする方が有効ではないか。
- ・ 岸：安井氏のおっしゃったようなご意見があることは十分認識している。また、一方で単純に立入規制をするだけでなく、島民に開かれた管理を検討した方が良いのではないかというご意見もある。また、管理の方針は決まっていないが、様々なご意見を伺う場として、保全対策検討会を設けたいと考えている。現在の検討委員会は、植物や鳥類等の専門家で構成されるものだが、地元関係者にも入っていただいた会議は立ち上げたいと考えている。もちろん安井氏のご意見も踏まえながら、今後検討していきたい。
- ・ 安井：有人島ネズミ対策について、カゴ罠を貸し出すのは良いが、島民は捕ったネズミの処理に困っている。行政機関で捕獲したネズミの処理を請け負ってくれるならば、ネズミを捕獲したいという人はたくさんいる。この点、管理機関で検討してほしい。
- ・ 深谷（小笠原村）：以前からいただいている意見なので念頭にはあるが、ネズミ対策は自主防衛が原則なので、行政がどこまで対策の手伝いをできるかどうかは検討中である。公有地では、行政で一斉に捕獲をする方法を試行的に行っているため、自主防衛と一斉捕獲の費用対効果を比較・検証していきたいと考えている。安井氏のご意見も踏まえながら、検討を進めていきたい。
- ・ 堀越：地域連絡会議のあり方について、確認したい。私が考える地域連絡会議とは、世界遺産の管理機関が実施している進捗事業について、7月は今年度実施中の事業についての確認、12月は今年度の評価と来年度に対する要望を寄せる場であると思う。今回は進捗状況に関する情報共有ということで、たくさんある事業の中からいくつかを抜粋して説明いただいたが、各団体それぞれ聞きたい部分が異なると思う。各機関の

担当者は、事前ヒアリングをして、全体の進捗状況の報告の他に、関心の高かった事業については、より詳細な内容を示してほしい。3月に事業計画が決まっているはずなので、その一覧表をこの場で説明するのではなく、一覧表を事前に送付して頂き、関心のある事業をヒアリングしておくことはできると思う。また、資料のまとめ方について、フォーマットは管理機関間で統一してほしい。また、事業の順番は、実施主体で分けるのではなく、管理計画の項目順、島毎にまとめてもらえると、管理計画との関連がわかりやすいと思う。

- ・ 松下：堀越氏のご意見の通りと思う。事前にどういうことが聴きたいかご意見を伺いながら、取り組み状況を報告していくのが良いと思う。資料作成にあたって、各行政縦割りにならないように留意していきたい。
- ・ 傍聴：これまでの会議や説明会でも意見しているが、今回の改定で新たな外来種の侵入に対する対策が強調されているが、既に侵入している外来種についてはどのように対応していけばよいか、行政窓口はどこか教えてほしい。既に侵入した外来種について、今日は触れられていないように思えたが、今後検討がなされるのか、新たな外来種という言葉の中に含まれているのか。
- ・ 岸：外来植物の駆除について、公園で見つかった場合ならば公園管理者、道路敷きならば道路管理者にお問い合わせいただくのが良いのではないかとと思う。
- ・ 傍聴：関心の高いものが、自分で管理者を調べて、窓口を訪ねたりメールを送ったりするということが。
- ・ 岸：管理者がわからないということであれば、管理機関のどこかへお尋ねいただければ、さらに具体的な窓口を紹介することができるかと思う。
- ・ 堀越：地域連絡会議で何度も発言しているが、世界遺産の維持管理に係る村民からの問い合わせ窓口が不明確である。よっぽど専門知識がないとどこが窓口なのか分からないし、非常事態が発生するのは大抵休日であったりする。世界遺産センターができた以上、少なくとも今の段階では、24 時間体制で村民・来島者の窓口となることが必要だと思う。管理機関内でぜひ前向きに検討してほしい。
- ・ 佐藤（小笠原島漁協）：外来種といわれても、何が外来種なのか分からない。一般人でも、外来種と固有種の区別ができるよう、リストや絵つきの資料等を作ってほしい。
- ・ 岸：わかりやすい普及啓発ができるものを作っていくことは必要だと思う。管理機関として検討していきたい。
- ・ 森田（母島漁協）：資料 2-2 p.4 で、ヒメカタゾウムシの生息密度が示されているが、単位面積は柵内ということか。また、トラップとあるが、これは 2016 年 4 月～5 月にトラップを再設置したと書かれており、これも含むデータなのか。
- ・ 岸：ヒメカタゾウムシの生息密度は、ヒメカタゾウムシ用のトラップを柵内外に設置し、各トラップで捕獲したヒメカタゾウムシの個体数を数えて算出している。
- ・ 森田：グリーンアノール対策として、兄島にベイトステーションを設置しているとのことだが、オカヤドカリの混獲はないのか。
- ・ 岸：海岸線に設置しているベイトステーションを点検すると、オカヤドカリが見られ

ることがあり、オカヤドカリが殺鼠剤を食べてしまっていることは否めない。そのまま放置していると、オカヤドカリの中に殺鼠剤の毒成分が蓄積されてしまうということもわかっているため、現在、海岸線に設置しているベイトステーションは高床式のものに改良していったところである。

- ・堀越：時間が短く、会議の場では議論・共有しきれていないと感じる。12月を待たずに、地域連絡会議へ簡単に状況を説明いただいた方が、12月の地域連絡会議をスムーズかつ効果的に開催できるのではないかと。今日出た内容についても、12月よりも前に情報共有してもらえると良い。個人的には、オガグワの森の進捗状況と進め方について、非常に興味があるため、メールで良いので情報共有をしてほしい。
- ・松下：やはり、行政機関から地域連絡会議へ、事前に関心の高い項目を聞いておき、すぐに答えられるものについてはその場で答えるし、詳細な説明が必要なものについては会議で資料を準備する等していけると良い。

科学委員より全体を通してのコメント

- ・大河内：今日いただいたご意見の中に、科学委員会として受け止めるべきものもいくつかあったと思う。そういった点については、科学委員会で検討していきたい。
- ・可知（科学委員）：科学委員として、特に新たな外来種の話は様々なレベルで課題が多いと感じている。引き続き頑張っていきたい。

地域連絡会議構成団体より全体を通してのコメント

- ・瀬堀（商工会）：資料 2-2 p.8 兄島のネズミ対策について、ヘリ散布後にかなり時間が経過しているが、その後、陸産貝類の個体数が守られて増えてきているのか、ネズミが減って増えてきているのか、途中経過でも良いので情報を共有してほしい。
- ・岸：今年5月に兄島で30地点、陸産貝類のモニタリングを実施しており、その結果では、これまでのモニタリング結果と比較し、減ってはいないが増えてもいない。現時点では、大きな変化が見られていない。資料にある通り、来年の8月で散布後2年となる。前回の殺鼠剤散布時には、散布から2年後に陸産貝類の増加がみられたことから、今回も来年の8月頃には成果が出てくるのではないかと期待される。ネズミはカメラには全く映っていないので、密度を算出するのは難しいが、痕跡が見られており、ベイトステーションで全域を対策できるわけではないことから、ベイトステーションの効果及ばない範囲では、徐々に個体数が増えつつあるということが懸念される。
- ・金子（小笠原村観光協会）：管理計画の改定に関して、ようやく具体的な項目が定まってきたので、これをどのように実効性のあるものにしていくかが課題だと思う。事業の実施状況と照らし合わせてみても、管理計画との結びつきが見えにくいと思う。今、行われているものでもそういった現状がある中で、管理計画をどのように改定していくか、検討の大詰めにさしかかっていると感じている。普段生活をしているとわからない、関心が薄いことも多いので、行政用語の塊である管理計画を、一般の人にどう理解してもらえるようにするのか、我々の担う仕事も多いのだろうと感じている。
- ・岡本（OWA）：前回の会議でも意見したが、OWAとしてはエコツアーの推進や海域調査の実

施をお願いしていたが、海域に関する内容は 5.2) に記述されるのか。また、今年度海域について話し合いの場を設ける予定はあるのか。

- ・ 岸：海域に関する記述は、5.2) や 5.5) に追加していきたいと考えている。具体的な作文をする中で、ヒアリングさせていただければと思う。
- ・ 佐藤：5.8) で施策の評価、検証とあるが、誰でもわかるような平易な文章を作ってほしい。
- ・ 小西：目次構成案の資料は、6/9 の資料と比較して、確実に前進していると思う。これからは大変になってくると思うので、頑張ってください。頑張りましょう。そして、行政の取組状況について、オガグワの森プロジェクトはぜひ母島でも同種の取組をしていただきたい。またプラナリア対策についても、母島については特に実施されていないようだが、母島における検疫体制の整備に関する取組もお願いしたい。
- ・ 門脇（母島農協）：生産現場からの意見としては、有人島内のネズミ対策に興味がある。殺鼠剤の農業者向け購入補助はいただいているが、農業者は依然苦しんでいる。モニタリング、一斉防除といっても、罌を少し仕掛けただけでは効果がない。農業者からは、より大規模な対策をやってほしいとの意見が挙がっている。また、土付き苗対策について、方針が定まっておらず、役場内でも調整しているようだが、時間が経てば経つほど、リスクが上がると思うのでスピーディに行動いただきたい。

小笠原村・森下村長より閉会の挨拶

- ・ 島内の各関係団体の皆様、関係行政団体の皆様、本日は小笠原の世界遺産の管理について、活発なご議論をいただきありがとうございました。また、松下支庁長におかれましては、メリハリのある進行をいただきありがとうございました。
- ・ 来年平成 30 年は小笠原が本土に復帰して 50 年を迎えるわけですが、いつもご紹介いたします通り、当島では村政確立以来、人と自然が共生する村づくりを基本理念に掲げてまいりました。本日もご議論のあった世界自然遺産の管理計画においても、世界遺産に認められた自然環境を、地域とともに守っていかなくてはならないということが再認識されております。まさに、世界自然遺産を守り活かしていくことが村づくりそのものに通じることだと思えます。
- ・ 議事の中でもご紹介しましたように、村としても動物協議会やオガグワの森づくりなど、新たな取組を始める中、息の長い取組を進めてまいりたいと考えております。
- ・ 関係団体の皆様、関係行政機関の皆様にも、日頃から多大なるご努力をいただいております。先日、6 月の下旬～7 月上旬に世界自然遺産ネットワーク協議会の関係で、屋久島の屋久島町、秋田県の藤里町の町長さんがご来島されました。その中で、地域のかかわりや行政間の連携ぶりに驚き、うらやましいとおっしゃってございました。島内では今日も様々なご議論があり、まだまだ課題もございますが、成果も出ているのではないかと思います。今後も前向きに根気よく力を合わせていければと願っておりますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

以上